

## 5月18 - 22日週のポンド円レビュー

May 25, 2009

### ポンド円堅調、弱い英指標こなしで買われる

High : 151.10 円 Low : 143.06 円

Close : 151.02 円

ポンドは週初から買いが先行。英4月CPIが市場予想を下回ったほか、イングランド銀行 MPC 議事録においては、さらなる資産購入枠の拡大が検討されるなど、ポンドにとっては好材料と言いつつも内容が難しい内容となった。また、週末には S&P より英国格付け見通しの引き上げが発表されたが、こうした悪影響は一時的なものにとどまり、ポンド円は 151.10 円まで上昇した。

5/18 (月) 147.81 円

インド下院選挙で与党連合が想定以上に得票を伸ばしたことを受けて、政権維持の公算が高まったことからインド株が上昇。さらに、米金融セクター主導でダウ平均が上昇したことから、円売りが強まり、一時 147 円後半まで上昇した。

5/19 (火) 148.52 円

英 CPI は市場予想を下回り英国のデフレーションが速まる可能性が示唆された。しかし、リスク資産への投資が継続するなかで、ポンド円も買いが優勢で、149 円後半まで上昇した。

5/20 (水) 149.49 円

英中銀 MPC 議事録では資産購入枠拡大が全会一致で決定し、さらなる資産購入枠の拡大が検討されるなど、ポンドにとっては好材料と言いつつも内容が難しい内容となった。ただ、ポンド円は底堅く推移し、149.86 円まで買われる場面も見られた。

5/21 (木) 149.56 円

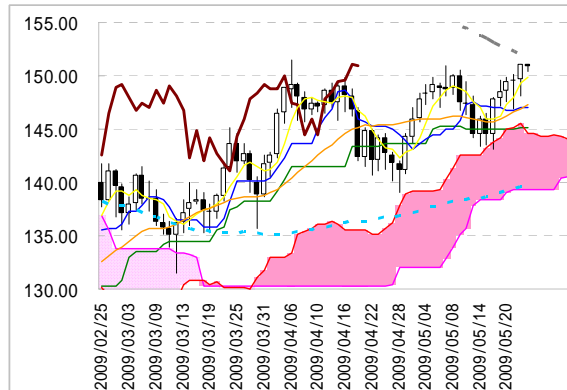
S&P が英国格付け見直し引き下げを発表したことからポンドは急激に売られ、ポンド円は 146 円後半まで下落。しかし、売り一巡後は買い戻しが活発化し、11 日以来の 150 円乗せとなり、150.10 円まで上昇した。

5/22 (金) 151.02 円

目新しい材料もなく、ポジション調整主体の動きに。ポンド円は欧州勢参入後に一時 148.17 円まで下落した。しかし、週末ということもあり、積極的な取引は手控えられ、下値も限定的。売り一巡後はポンドドルの上昇を支えに、151.10 円まで買われた。

月日	High	Low
5/18 (月)	147.92 円	143.06 円
5/19 (火)	149.65 円	147.10 円
5/20 (水)	149.86 円	147.57 円
5/21 (木)	150.10 円	146.84 円
5/22 (金)	151.10 円	148.17 円

### ポンド円の推移



### テクニカル短期・中期ポイント

151.74 (200 日移動平均線)

151.53 (4月6日高値 = 年初来高値)

==== 先週末の NY クローズ 151.02 円 =====

139.33 (日足一目均衡表・雲の下限)

135.74 (3月30日安値)

### 英国の重要指標結果

5/19 (火) [結果] (前回)

4月消費者物価指数(前年比) [+2.3%] (+2.9%)

4月小売物価指数(前年比) [-1.2%] (-0.4%)

5/20 (水)

英中銀 MPC 議事録、全会一致で政策金利据え置きを決めた。さらに、資産購入枠の 500 億ポンド拡大が全会一致で決定し、さらなる資産購入枠の拡大が検討されたという。

5/21 (木)

4月小売売上高 [+0.9%] (+1.2%)

S&P が英国格付け見直しを「安定的」から「ネガティブ」へ下方修正。

### アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 139.33 - 152.00 円

今後のポンド円の見直しについて英大手外銀筋は「テクニカル的には上昇シグナルを示しているが、それ以上に英国のファンダメンタルズの弱さがポンド売りに向かわせる」とし「S & P の英国格付け見通しの引き下げにおいても、引き続きポンドに影響を与える」といい、上値の重い展開を予想している。